

# 論

## 民の力

3

関西の振興に、いかに「民の力」を生かすか。その処方箋を考えるシリーズの第3回は、地域の魅力を高める住民活動をテーマに論じてもらう。世代を超えた人と人とのつながりやお年寄りの経験、知見が、新たなコミュニケーションづくりや、街の歴史・文化の掘り起こしへと結びついていく。具体例をもとに、さらなる策を考える。

### 都道府県別の健康寿命(歳)

男性		女性	
1 山梨	73.21	1 愛知	76.32
2 埼玉	73.10	2 三重	76.30
3 愛知	73.06	3 山梨	76.22
16 滋賀	72.30	全国平均	74.79
全国平均	72.14		
21 兵庫	72.08	34 大阪	74.46
28 京都	71.85	37 和歌山	74.42
39 大阪	71.50	39 兵庫	74.23
41 奈良	71.39	41 奈良	74.10
43 和歌山	71.36	42 滋賀	74.07
44 徳島	71.34	44 京都	73.97
45 愛媛	71.33	45 北海道	73.77
46 秋田	71.21	46 広島	73.62

※厚生労働省調べ。熊本県は震災の影響で調査なし

## 健康寿命の長さ 社会参加も影響

お年寄りが介護を受けたり寝たきりになったりせずに、何歳まで自立的に日常生活を送れるか。厚生労働省は、その目安を「健康寿命」として、3年に1度公表している。数値は食生活や運動習慣と共に、社会参加の度合いも影響するという。

2016年の推計値(別表)では関西は他の地域に比べ、下位の府県が自立つ。

内閣府の「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(2013年度)では60歳以上の57.9%が「町内会・自治会」「趣味」「健康・スポーツ」等のグループ活動に参加していた一方、「参加したいが、参加していない」という人も22.4%に上った。

自治体や民間団体などが工夫し、高齢者が参加しやすい活動を増やしていくことが必要だ。健康寿命が延びれば、医療・介護費の抑制が期待できるだけでなく、元気なシニアが増え、社会の活力も維持できよう。

- 関西の街に埋もれている歴史的資産の再発見を
- 住民による「地域再発見」に自治体のサポートを
- 地域の再生・活性化に向けたCSR活動の拡大を

組みが歴史や文化に目を向ける機会になり、街への愛着や誇りを育むことにもつながります。

この企画に関しては、ずっと



栗本 智代 大阪ガスエネルギー文化研究所主席研究員

# 地元再発見 シニア率先

くじもと・ともよ 兵庫県西宮市出身。奈良女子大卒。大阪ガスに入社し、91年からエネルギー文化研究所の研究員を務め、歴史や文化の側面から、関西の街の個性や魅力を探求している。52歳。

ほぼ一人で台本づくりや語り部役を担ってきました。もっと多くの作品を制作・発表して地域の魅力を高めたい。そんな思いから2013年、一般を対象にワークショップを始めました。

0人という規模が理想ですね。特に期待したいのがシニア世代です。頭と体を使って街の価値を見直す作業は新たな生きがいにもなるでしょう。

景には、関西、とりわけ大阪を中心に、戦後の復興期に経済が最優先されたことがあります。水を支えた川を埋め、曲がりくねった道はまっすぐにする。食べること、生きていくことが最優先で、「文化」は置き去りにされてしまった。

エピソードを発掘して史料や文献を調べる。地図を手に街を歩く。そういった取材に関わる人、そのノウハウを伝授するアドバイザーを育てるためです。

高齢者の積極的な社会参加を進めることは自治体の大切な役割です。自治体の職員さんたちには、ぜひ、私たちのワークショップに参加して、ノウハウを身につけてほしい。そして、各地で歴史的な資産を掘り起こす活動が始まれば、というのが私の願いです。形式はいろいろあるといい。街歩きツアーとか、紙芝居とか。おばあちゃんの人語りも喜ばれるでしょう。

近年、CSR(企業の社会的責任)活動として、専門の部署を設け、地域との協働を進める企業が増えています。鉄道会社が沿線の魅力アップに取り組みだり、建設会社が東日本大震災の被災地復興を支援したりする例もあります。地域が元気にならないければ、経済も良くなりません。企業も「地元再発見」の旗振り役になってくれることを期待しています。

どんな街にも歴史や文化にまつわるエピソードがあり、関西は特に恵まれている、と思えます。けれど、歴史的な建造物の多くが戦火で失われ、地域の住民が入り替わる過程で、多くの記憶が忘れ去られてしまいました。例えば、歌舞伎の「義経千本桜」の名場面、平知盛が礎を担いで身を投げる海は、今の兵庫県尼崎市大物町のあたり。近松門左衛門が「曾根崎心中」を書いた頃、大阪・梅田は、田んぼと畑しかなかった。そんな話をすると驚く人が増えました。

街のエピソードをもっと知ってもらおうと、物語に仕立てて語りや映像、音楽の生演奏と一緒に紹介する「語りベシアター」を、1994年から続けています。これまで50回ほどの公演では、「暮らしている地域の魅力がわかり、元気が出た」「物語を通じて街の新しい顔が見えてきた」といった感想をいただきました。地域を再発見する取り

歴史資産が埋もれていた背

(聞き手・向野晋)